

# 仕事 自分流 生活

九州の地銀五行が出資する中小企業支援基金「九州アリツシファンド」の運用を任されている。「企業の大小で投資先を問わず、地域に必要とされている事業がどうかで決めたい」と話す。

三月に解散した産業再生機構から、知人の仲介で九州に特化したファンド運営会社のドーガン・インベストメンツ（福岡市）入り。新卒で入った高十銀行（現みずほ銀行）から数えて、社会人八年

ドーガン・インベストメンツ  
シニアファンドマネジャー  
中西 雅也さん  
31歳

## 企業再生

目にして四社目となる職場は「ファンドの趣旨を聞いて、おもしろそうだった」と、十分間で入社を決めた。

## 機構の経験を生かす



将来は「収支はほとんどぐらいいで、自分がゆったり過ごせるカフェを運営してみたい」と語る中西雅也さん

ファンドを駆使して、後継者不在で存続困難な地場中小企業の経営権を取得、事業と雇用を維持しながら次の経営者に継承する役割。 「もう一辺倒のファンドとは違い銀行が出資した公共性もある。責任は重大」と表情を引き締める。

二〇〇五年に機構が支援決定した福岡交通（宮崎市）の再建チームに加わり、約一年半を宮崎で過ごした。取締役の名を連ねて経営会議に出席する一方、グループの観光ホテル改装で、従業員と

意見を出し合いながら、徹夜で売店の商品を並べ作業にも携わった。

「百円、千円単位の売り上げに必死な現場に入ると、マネーゲームはしなくなくなる」と強調。

どこか冷たいイメージのある横文字職業だが、仕事の理想は「人からありがたうと言われる仕事をすること」と語った。

生まれ育ちは東京。宮崎にかかわるまで九州とは無縁だった。「成長の可能性はあるのに、仲はし切れない会社が多いと感じ」。九州の企業へのびしろの大きさを、自分の人生に重ねている。

(前田 穂)